话道甘淮海不 二 。	. w. 7117 k	作成者:		記入日:			
誘導基準適否 チェックリスト					年	月	\Box
物件名:							
地域の区分 →P.4		8	也域				
●建設地の地域の区分を 一 確認してください。 建 ● ②建設地は、都道府県名 及び 市町村名を記入してください。	設地:	都府	道 県			市町	村



- ◎建物の構造、断熱する部位及び採用する断熱工法によって基準値が異なります。
- ◎断熱する部位とその部位の断熱工法をチェックし、「断熱材の製品名と厚さ」及び「熱抵抗 R」を 記入のうえ、基準適否を確認してください。
- ◎1つの部位で複数の断熱工法を採用する場合は、それぞれの工法ごとに基準値を満たす必要が
- ◎1つの部位に複数の仕様がある場合は、性能が低い仕様(熱抵抗 R が小さい方) について記入してください。
- ◎該当する部位がない場合は、「該当部位なし」にチェックをしてください。

			断熱材の製品名と厚さ		熱抵抗	適否確認		
部(位	断熱工法の基準値			R [m²·K/W]	該当 部位 なし	適合	不適
	屋根	軸組充填: R≥1.0枠組充填: R≥1.0小 張: R≥0.9	製品名(又は断熱材の種類)	厚さ mm	R			
木 造	天井	軸組充填: R≥0.8 枠組充填: R≥0.8 外 張: R≥0.9	製品名(又は断熱材の種類)	厚さ mm	R			
RC造	屋根叉は天井	□ 内 断 熱:R≥0.7 □ 外 断 熱:R≥0.6 □ 両面断熱:R≥0.6	製品名(又は断熱材の種類)	厚さ mm	R			

木造·RC造共通

©「製品名」及び「窓の日射熱取得率 η 」を記入のうえ、基準適否を確認してください。 ©複数の仕様がある場合は、窓の日射熱取得率 η が大きい仕様を記入してください。

部位	日射遮蔽対策 基準値	製品名	窓の日射熱取得率 ガ [—]	適 該当部 位なし	否確適合	認不適
80	付属部材、 有効なひさし、軒等が ある所に設置する窓	製品名(又は建具とガラスの種類)				
窓	付属部材、 有効なひさし、軒等が ない 所に設置する窓 ^{イー3} ≤ 0.53	製品名(又は建具とガラスの種類)	η			

木造·RC造共通 設備機器の

- ▲下記に記載のない設備機器を設置する場合、このチェックリストは使用できません。 この場合、省エネルギー消費計算プログラムにより設置の適否を確認してください。(省エネ適合性判定)
- ◎冷房設備は、冷房する範囲を選択したのち、各々についていずれかを選択してください。
- ◎冷房設備を設置しない場合や入居後に設置する場合、又はまだ機器が決まっていない場合は、 不適合となります。

冷房設備 右記のいずれかを選択	□住戸全体を冷房	□ ダクトセントラル空調機で、以下の全ての仕様に該当すること □ ヒートポンプ式熱源 □ 可変風量制御方式(VAV 方式)であるもの □ 断熱区画内に全てのダクトを設置するもの	
	□ 居室のみを冷房	主たる その他 居室 の居室 設置する居室をチェックしてください。(その他の居室がない場合は主たる居室のみ)	
換気設備	熱交換型換気設備を 採用しない	以下のいずれかの設備機器であること ダクト式第一種換気設備で、ダクト内径が 75mm 以上で、かつ DC モーター(直流)のもの ダクト式第二種 又は 第三種換気設備で、ダクト内径が 75mm 以上のもの 壁付け式第二種 又は 第三種換気設備のもの	
右記のいずれかを選択	熱交換型換気設備を	以下の全ての仕様に該当すること ダクト式第一種換気設備で、ダクト内径が 75mm 以上、有効換気量率 が 0.8 以上で、 かつ DC モーター(直流)のもの 温度交換効率 が 70% 以上のもの	
給湯設備	□ 電気ヒートポンプ給湯機【エコキュート】の JIS 効率 3.3 以上のもので、 分岐後の全ての配管径が 13A 以下のヘッダー方式、浴室シャワー水栓に手元止水機構 及び 小流量吐水機構を有する節湯措置、高断熱浴槽の採用をしているもの		
照明設備	□ 全ての照明設備が LED である		

誘導基準への適合確認のプロセス

明寺王十、公屋口暗明のと口でい				
■ 断熱材の熱抵抗R	$\Bigg] \!$	確認する構造の基準にすべて 「適合」又は「該当部位なし」を選択		誘導基準
② 開口部(窓)の仕様)-	最低ひとつの仕様を選択	<u>} </u>	→「適合」
③ 設備機器の仕様)	すべての設備でいずれかの仕様を選択	-	となります。

誘導基準適否				
□ 適合	□不適			